

番号	氏名	抱負
6	飯田 紀世一	<p>現在、東京部会理事として部会運営と大会開催委員として本部運営にも携わらせて頂いております。東京部会員のニーズを吸い上げ東京部会の更なる活性化を図るとともに本部と地方のパイプ役となって地方の意見を反映させたいと思います。本部の学会運営の円滑な遂行と発展のために、微力ながら貢献できるよう最善の努力を尽くす所存です。</p>
7	西出 裕子	<p>日本放射線技術学会は、放射線技術について研究するすべての人に開かれた学会であると認識しています。現在大学教員として、放射線技術学を学ぶ学生を指導していますが、本学会は、彼らが卒業後、病院や企業、大学院などで研究した成果を、発表し論文を投稿する、あるいは診療放射線技術学について議論をする場であり続けるべきであると考えます。学術交流委員として短期留学や国際研究集会派遣を担当していますが、応募状況を見ても、多くの若い会員が海外の学術研究集会で発表し、日本のレベルの高さを世界に発信しています。今後、さらに放射線技術学に関連する他の医療職種や他分野の専門家が本学会に加わることによって、学術レベルの向上を目指すべきです。また会員への教育活動の充実も図っていかねばなりません。そのために理事として貢献していきたいと考えています。</p>
8	南部 秀和	<p>本学会の会務には、8年前より近畿部会理事、プログラム委員として地方と本部事業に携わって参りました。部会事業では、会務の標準化に取り組み、企画を充実させることで情報発信に尽くしました。プログラム委員では、放射線治療分野の一般研究発表の審査を通じて最先端の研究をサポートして参りました。この間、学会は公益法人格を取得し、会員数減少、個人情報保護、倫理、国際化、関連諸認定対応と内外のめまぐるしい情勢を一会員としても体感してきました。高度化する放射線技術学は、それを取り巻く各種専門分野の学者、臨床家、学生、ベンダー、一般の方への公益性が方向を見誤らないようバランスのよいものでなければならぬと常日頃考えています。放射線治療を専らの業とする立場で、これまでの経験を踏まえバランスを見極めた上で、アジアで鍵を握る学会に発展するよう尽くす所存です。皆様の一票を何卒宜しくお願い致します。</p>
9	石田 隆行	<p>本学会は、放射線技術学の発展を目的として成長してきました。RSNAやECRIに参加したことがある方は、技術学会で発表されている研究も世界に発信できるのではないかと感じたことがあると思います。ただ、学会全体をそのレベルに到達させるには、いくつか努力が必要です。まず、世界の文献を読み、英語で研究発表して論文を書く英語力を高めること、そして研究の議論をするためのコミュニケーション力、プログラミングやシミュレーションなどのコンピュータを用いた解析力、そして数学、物理学、生物学、化学などで現象を分析・理解することができ、それらを自在に使いこなすだけの基礎的能力を向上させることです。どれをとっても時間のかかる課題ではありますが、学術レベルのさらなる向上のためには避けては通れません。世界に誇るユニークな学会へと進歩し続けるために、会員が自己研鑽できる多様な事業を展開できるようにしたいと思っています。</p>
10	筑間 晃比古	<p>私は診療放射線技師になり33年が経過し、その99%は放射線治療を行ってきました。当初は先輩方に迷惑をかける毎日で自分の不甲斐なさに悩んだものでした。その時、上司から「日本放射線技術学会と言うのがあるので入会して勉強なさい」と言われたのが当学会との出会いでした。その後、若輩者の私が東京部会の委員となり会議の席で少しばかりの知識を基に、諸先輩方をさておき意見を述べる事が出来たのは、当時の先生方の懐の広さだったのだと思います。このように若い人でも常に同じ仕事をする仲間として意見が言える学会を継続し、より良い会員サービスを提供する事を常に考え、放射線治療のみならず広い視野を持ち、得意とする放射線障害防止安全管理について、行政側との橋渡しもして行きたいと思っています。選出された暁には微力ではありますが、会員の為、学会発展の為に力を注ぐ所存しております。宜しくお願い致します。</p>